



宅配を担うのは、全国241の営業所に所属する約6600名の「まごころスタッフ」で65%が女性。年齢制限を設けていないため、最高齢は86歳。今日も現役でお客さまのもとへ足を運んでいます。

「まごころスタッフ」は毎日決まった時間に、手渡しを基本として弁当を届けることで、日常の変化に気づきやすく安否確認になるなど、高齢者とのコミュニケーションにもつながっているのだそうです。

お客さまから「今日も待っていたよ。美味しかった」と言われるのが一番嬉しいとのこと。外食事業を展開するワ

タミには自社農場も集中仕込みセンター（食材の加工）もあるので、安全・安心な食材を使った毎日手づくりの弁当を届けることができます。

説明を伺った後、広報の増子さんに、女性が働く場として感じることにについて聞いてみました。

「女性だから」というのを意識することがないほど、仕事の上で男女差がありません。年功序列もなく、頑張れば頑張っただけ、挑戦ができる会社です。私たち社員は手帳を活用し、自分の夢や目標を5か年計画におとしこみます。そこでは仕事のことだけでなく、他に趣味、家庭、教養、財産、健康という計6本の柱についても目標を立てます。これらを毎月のカウンセリングでグループ直属の上司と話し、今自分のやっていることが何のためなのかをいつでも確認、目標に対し結果が出るように目指します」

また20代という増子さんは目をキラキラさせて、はつらつと働く意義を語ってくれました。仕事のみならず、ワークライフバランスについても相談できるなど、働き手個人の生活の豊かさをも忘れない職場だからこそ、一人ひとり輝いているのでしょう。

地域のナンバーワンを目指す女性支店長

三井住友銀行 下丸子支店 支店長
飯嶋 澄子さん

新しくメガバンクの支店長として地域の顔となった女性、飯嶋澄子さんに仕事への取り組みやリーダーとしての想いを伺いました。

証券会社の破綻。そして転職へ

飯嶋澄子さんは大学卒業後、90年に大手証券会社に入社。そこで顧客に株式売買や信用取引を案内する、金融のプロとして充実した仕事を積み重ねていました。しかし、そんな大手証券会社がまさかの破綻。彼女は突然の失職という試練を受けました。

くじけそうになる中、これまでお付き合いいただいた顧客、とりわけ自分より人生経験豊富な年配の人たちから、「次の金融機関でも頑張って」

「あなたについていくわよ」とエールをもらい、この先も金融業界でやっていける気がしたそうです。

「命の次に大事なものである資産を預けてくださるお客さまに信用していただけたのは、金融のプロとしてコンサルタント冥利に尽きると思えました。」

私の仕事は、資産のみならず、ライフスタイルのご相談に乗るような側面もあります。例えば、ご主人が重病という第一報を知らせてくださるなど、家族同様、時にはそれ以上のお付き合いをいただいたのは、かけがえのない心の財産だと思っています」

そして98年、現在の銀行に再就職。「転職先はメガバンクの中でもキャリア採用に積極的で、当時も100名程度のキャリア採用を実施していました。」



Sumiko Iijima